

# 球技 ゴール型「バスケットボール」

本単元で育成する資質・能力

課題発見・解決力

チャレンジ精神

日時：平成29年10月5日（木）第5校時

学級：2年A組（男子23名，女子9名 合計32名）

場所：忠海中学校体育館

## 1 単元について

### （1）単元観

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。本単元は、保健体育科学習指導要領解説「E球技」〔第1学年及び2学年〕の技能に示されている「勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、基本的な技能や仲間と連携した動きで攻防を展開できるようにする。」を受け、（1）「ゴール型」の領域における、ドリブルやパスなどのボール操作で相手コートに侵入し、シュートを放ち、一定時間内に相手より多くの得点を競い合う力を身に付けることができる。積極的に取り組み、フェアプレイを重んじ、個々の役割を果たすことや話し合いに参加し、自己の健康や安全に気を配ることができるようにすることをめざし、技術に伴う名称や行い方についても正しく理解し、課題に応じた運動の取り組み方を工夫することができる。自己やチームの課題を見付け、課題に応じた練習方法を選ぶことで思考・判断力を身に付けさせることができる単元である。

### （2）生徒観

本学級の生徒は運動に積極的に取り組むことができ、どの単元においても意欲的に活動ができる。ペア学習やグループ学習にも意欲的に取り組むことができるため、協働学習に主体的に取り組み、互いに学習を深めることができる。

新体力テストの結果を総合的にみると、男子は全国及び県平均値と同等の力を持っており、女子は半数の生徒がA評価を得るなど体力には優れた生徒が多い学級集団である。男女共通して、巧緻性（ハンドボール投げ）が劣っていることが今後の課題と言える。

運動に関するアンケート結果から、体を動かすことが好きと肯定的に答える生徒が96.7%であった。バスケットボールが好きと答えた生徒も96.7%であった。しかし、バスケットボールが得意と答えた生徒は64.5%であり、理由としては、ドリブルやシュートなどのボール操作に苦手意識があったり、大きなボールに恐怖心を感じていたりしていることが分かった。また、第1学年時には、基本的なボール操作について学習しているが、技能が身に付いている生徒は半分程度である。

### （3）指導観

基本的な技能の定着を図るために、段階的な指導から着実なレベルアップが求められる。基本的なシュートやパス、ドリブルの練習方法を繰り返し行ったり、ゲーム形式で楽しみながら行ったりすることで、段階によっては、自己のチームの課題を明らかにして、練習方法を考えさせ、実践していくことでより効果的な練習に繋がるよう促していく。

ペアやグループでの活動を通して協働的に学ぶことで、互いに教え合い、考え合うことで、課題解決に繋げていきたい。また、課題解決の手立てとして、学習プリントや掲示物を活用して、思考力・判断力・表現力を高めることができるようにする。ICT（タブレット等）の効果的な活用を工夫し、自己の課題を見つけさせたり、チームにあった練習方法を考えさせたりする。

## 2 単元の目標

- 得点しやすい空間にパスを出すことや確率の良いシュートをすることで、ゴール前での攻防を展開することができる。【技能】
- 球技に積極的に取り組み、互いに相手を尊重したフェアプレイを意識し、自己の役割を果たそうとする。作戦などについてチームでの話し合いに意欲的に参加するとともに、健康・安全に留意することができる。【態度】
- 球技の特性や成り立ちを理解し、技術の名称や行い方、関連して高まる体力などを理解し、課題に応じた練習方法を選ぶことができる。【知識、思考・判断】

## 3 評価基準

### 【単元の評価規準】

ア 運動への 関心・意欲・態度	イ 運動についての 思考・表現	ウ 運動の技能	エ 運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>・球技の学習に積極的に取り組もうとしている。</li> <li>・フェアにプレイをしようとしている。</li> <li>・自己の役割を果たそうとしている。</li> <li>・話し合いに意欲的に参加している。</li> <li>・自己の健康や安全に留意している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題に応じた運動の取り組み方を工夫している。</li> <li>・自己やチームの課題を見付けている。</li> <li>・提供された練習方法から自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。</li> <li>・仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゴール前での攻防を展開するためのボール操作と空間に走り込むなどの動きができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・球技の特性や成り立ちを理解している。</li> <li>・技術の名称や行い方を理解している。</li> <li>・関連して高まる体力を理解している。</li> </ul>

### 【学習活動に即した評価規準】

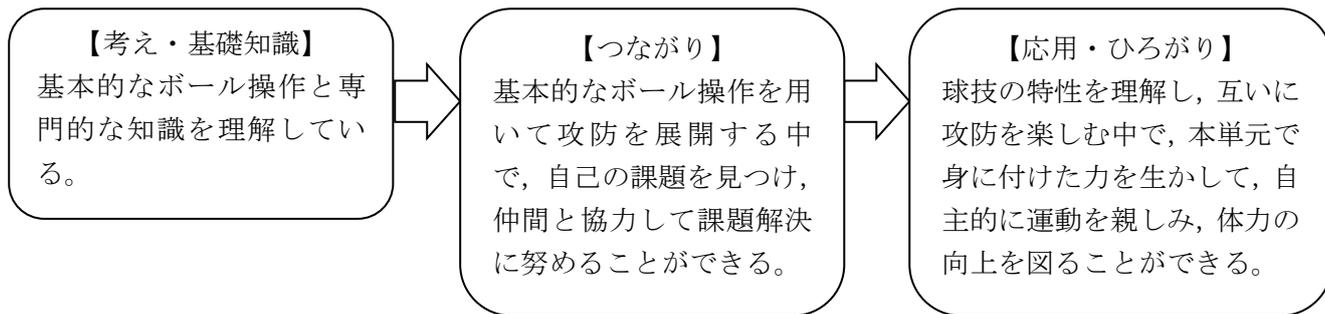
ア 運動への 関心・意欲・態度	イ 運動についての 思考・判断	ウ 運動の技能	エ 運動についての 知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> <li>①自己の役割を果たし、積極的に取り組もうとしている。</li> <li>②チームの練習や作戦などの話し合いに参加しようとしている。</li> <li>③自己や仲間の安全に留意している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①課題に応じた練習方法を選択したり、考えたりしている。</li> <li>②チームで話し合い、練習方法を工夫している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①安定したボール操作を行うことができる。</li> <li>②ボールを持たないときに、得点をねらって空いているスペースに走り込む動きができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①バスケットボールの特性や成り立ちについて学習した具体例を挙げている。</li> <li>②バスケットボールの技能の名称や行い方について学習した具体例を挙げている。</li> </ul>

## 4 本校において育成しようとする資質・能力

(○印は本単元において育成しようとする資質・能力)

スキル	課題発見・解決力	○	課題を解決するために情報を収集し、自分なりに結論をまとめることができる。
意欲・ 態度	チャレンジ精神	○	自ら目標やその目標を達成するための計画を立てることができる。
価値観・ 倫理観	自己理解・自らへの自信		学校、家庭、地域における自分の役割を理解できる。

## 5 単元のICEモデルイメージ



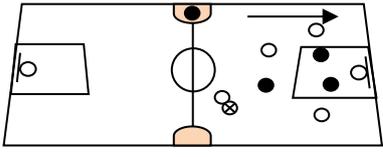
## 6 指導と評価の計画（全10時間）

時	学習内容	評価					
		関	思	技	知	評価規準	評価方法
1	オリエンテーション レディネスゲーム	○			○	ア③自己や仲間の安全に留意している。 エ①バスケットボールの特性や成り立ちについて学習した具体例を挙げている。	行動観察 学習プリント
2 3	個人的な技能を高める練習 (シュート, パス, ドリブル)			○	○	ウ①安定したボール操作を行うことができる。 エ②バスケットボールの技能の名称や行い方について学習した具体例を挙げている。	行動観察 学習プリント
4	2対1, 3対2の攻防			○		ウ②ボールを持たないときに、得点をねらって空いているスペースに走り込む動きができる。	行動観察 学習プリント
5	3対3の攻防	○				ア①自己の役割を果たし、積極的に取り組もうとしている。	行動観察 学習プリント
6 7	4対3の攻防 《本時》		○	○		イ①課題に応じた練習方法を選択したり、考えたりしている。 ウ②ボールを持たないときに、得点をねらって空いているスペースに走り込む動きができる。	行動観察 学習プリント
8	4対4の攻防	○	○			ア②チームの練習や作戦などの話し合いに参加しようとしている。 イ②チームで話し合い、練習方法を工夫している。	行動観察 学習プリント
9 10	5対5の攻防		○	○		イ②チームで話し合い、練習方法を工夫している。 ウ②ボールを持たないときに、得点をねらって空いているスペースに走り込む動きができる。	行動観察 学習プリント

## 7 本時の学習（7時間目／全10時間）

- (1) 本時の目標  
自己やチームの課題を明らかにして、練習方法を選択することができる
- (2) 教科の評価規準  
自己やチームの課題に適した練習方法を選択したり、工夫したりすることができる。
- (3) 準備物  
バスケットボール、ビブス、得点板、電子ホイッスル、ホワイトボード、マーカー  
タブレット、プロジェクター
- (4) 学習の展開

時間	学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆：努力を要する状況と判断した生徒への指導の手立て）	評価規準 （評価方法）
導入	1 集合・挨拶 2 本時の目標の提示・確認	◇健康観察及び怪我や事故の予防の声掛けをする。	
10分	めあて：練習方法を選択し、練習して身についた力を試合に活かすことができる		
	3 ランニング・体操・補強運動 4 シュート練習	◇リーダーを中心に練習内容を考えながら、ウォーミングアップをさせる。 ◆個別指導を行い、掲示物等を使い、運動のポイントをイメージさせる。	
展開 I 15分	5 グループ練習（選択）  ① シュートゲーム：2対1  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">アウトナンバーで攻める意識づけ</div> ② ドリブルゲーム：1対3 Goal  <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">周囲を見て守備者を抜いていく</div> ③ パスゲーム：3対3 	◇シュートやドリブル、パスの練習内容を選択させ、グループで工夫して取り組ませる。 ◇フリーになっている仲間を見つけ、適切なシュートを打たせる。 ◆攻撃側はドリブルやパスで攻めながらフリーの人を見つけること。守備側は守る位置について指導する。  ◇ドリブルをしながら素早く移動する技能を身に付けさせる。 ◇時間や回数などのルールを工夫して行う。 ◆ボール操作のポイントを互いに教え合ったり観察したりすることで技能の習得を目指す。  ◇フリーになっている仲間を見つけ、適切にパスの方法やボールキープを選択させる。また、ボールを受ける意識も持たせ、動き方を考えさせる。 ◆個別指導を行い、適切なパスをするためにボールキープの技能も合わせて身に付けさせる。	イ①課題に応じた練習方法を選択したり、考えたりしている。
	味方へ確実にパスをつなぐ意識づけ		

<p>展開Ⅱ 20分</p>	<p>6 ゲーム：4対4 →攻撃4人守備3人ルール</p> 	<p>◇チームで作戦を考えさせる。 ◇アウトナンバーをつくりフリーの状態でシュートを打てるように意識させる。 ◇ルールを確認するとともに、生徒が自主的にゲームを運営できるように指示をする。</p>	<p>ウ②空いているスペースに走り込み、シュートを打つことができる。</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>7 学習の振り返り，学習プリントの記入 8 本時のまとめ 9 次時の学習内容の確認 10 挨拶・片付け</p>	<p>◇本時の振り返りをICTを用いて行う。目標に対する反省と次時への課題を明確し，意識づけさせる。 ◇本時の目標が達成されたか確認し，次時への学習意欲につながるように肯定的評価を具体的に行う。</p>	